

# みのりランチ便り ①

おかずと思い出提供  
 すずきかみずのなぎさ  
 鈴木希果・水野渚

みのりランチ企画では、食を通して他者を知るというテーマのもと、昨年度は「みのりランチ月報」を発行しました。今年度は、取手にゆかりのある藝大生を彼らの思い出のおかずとともに紙面で紹介する「みのりランチ便り」を不定期で発行するだけでなく、ついに紙面を飛び出し、実際にそのおかずを楽しめる企画を藝大食堂にて行います。



材料  
 餅米適量・片栗粉適量  
 お好みでヨモギや桜の塩漬け

- ①餅米を炊く（炊飯器で炊くと楽）
- ②炊いた餅米をボウルに入れ、めん棒などを使って米粒が少し残るくらいになるまで潰す。
- ③潰した餅米を一口サイズに丸めて片栗粉をまぶせば完成。  
 ※茹でたヨモギをミキサーで攪拌し、餅米と一緒に炊けばヨモギだんご。桜の塩漬けを添えれば桜だんごに。あんこやきなこを添えて食べても◎



＼学外の方大歓迎！／

7月11日(月)から  
 15日(金)まで  
 10時～16時限定  
 鈴木さん・水野さん  
 オリジナル野草茶が  
 藝大食堂で味わえます

ぜひ遊びにいらしてください！  
 お待ちしています

お昼どきなど混雑時には  
 お待ちいただく可能性があります  
 お茶は無料で飲みいただけます  
 ※ランチご利用は13時以降～  
 要事前電話予約 0297-84-1874

## 取手生まれの3色だんご



取手の色を見つめたいと考えた私たちは、親しい人たちを招いて取手校地でピクニックをすることに。取手校地の桜とヨモギで染めた布と、藝大のヤギの糞入りの土を焼き上げて作った器を用意し、取手校地で摘んだ野草を乾燥させて作った野草茶に、茨城県産のお米を使った3色だんごを振る舞いました。取手生まれのものに囲まれ、私たちの生活は色彩豊かな大地に根付いたものなんだ、と確かに感じたひと時でした。



住む場所と学校があって、作家活動を行う場所でもある取手。そんな取手について、あるとき私たちはこんなことを考えました『取手って何色をしているんだろう？』身近な場所のはずなのに、ウーンと悩み込んでしまったのです。例えば取手の夏は、緑色のような気がします。でもよく見ると小さな花が咲いていたりして、単色ではありません。また、冬は全面真っ茶色のように思えますが、枯れ葉や土などの濃淡がそこにはあります。

今回紹介するのは、取手で活動する藝大院生の鈴木さんと水野さん。「土や草花といった自然を通して、取手という場所を再解釈する」というプロジェクトを始めた2人に、思い出のおかずを聞きました。

私たちは今、「SHIKI-ORORI」色を織り織り・土に降り降り」というプロジェクトを行っています。取手市の小文間地区と高須地区を中心に様々なリサーチや活動を行い、食・コミュニケーション、季節、自然をテーマに、足もとにある多種多様な取手の『色』を様々なメディアに織り込み、『土』に降りて、自分がいま立っている場所について再思考する機会を作ることを目指しています。

今回のレシピ制作とピクニックはその一環として行いました。取手にお住まいの皆さんと、オリジナルレシピの開発やヤギ粘土うつつわりなどを通じて、自分たちの周りにある『色』や『土』について考えていきたいです。

夏と秋にまたピクニックを企画しているので、ぜひ遊びにいらしてください！

【鈴木希果・水野渚】東京都渋谷区生まれ（鈴木）。愛知県名古屋市生まれ（水野）。現在、東京藝術大学大学院グローバルアートプラクティス(GAP)専攻在籍中の同級生ユニット。

鈴木さんと水野さんよりメッセージ

おかずを作ってみたよという報告やおかずのエピソードなど、皆さんからのご意見・ご感想を募集しています。こちらの連絡先までお寄せください。FAX：0297-84-1875 MAIL：tap-info@toride-ap.gr.jp

主催／発行／取手アートプロジェクト実行委員会 企画・編集／幅谷真理 写真提供／小路口寛 助成 文化庁令和4年度文化芸術創造拠点形成事業・自治総合センター令和4年度地域の芸術環境づくり助成事業